

家庭と学校ではぐくむ子どもの情操

1 道徳的価値と価値観

(1) 人間の価値観

- 人間は自分の経験からものごとを考える（年齢、環境、周囲の人々とのかかわり）
 - 価値観は一人ひとりちがう（多様性） 最も子どもの価値観に影響する人は？
- 価値観はよりよく生きるためのカギ
 - 価値観は変わる 大人の価値観は大丈夫か？

(2) 中学生に考えさせる24の価値観（道徳的価値）

2 道徳の時間

ひとつの価値を取り上げ、自分の価値観を見つめ直す（資料、友達の意見、説話など）

- ①道徳的な価値観はよりよく生きる上で大切であること
- ②道徳的な価値観を持ち続けるのは容易ではないこと
- ③人間の価値観は多様であること

道徳的な価値観の変化や成長を実感する → 価値の再構築

(1) 自分とのかかわりで考える（資料と発問）

資料などを通じて、主人公に自分の心を重ね、自分のこととして考える。

- 資料の活用 「共感的」（どんな気持ちだったのだろう）
 - 「批判的」（どうすればよかったのだろう）
 - 「範例的」（優れていると感じたところはどんなところかな）
 - 「感動的」（心を動かされたところはどこかな）
- 中心発問 資料の文中を探しても答えられない。
 - たてまえや表面的な考えでは答えられない。（本音や心情）

(2) 友だちと話し合って考える

発問に対する考えを交換して、より深く考える。

- 意見交換や話し合いのあり方

(3) 自分がすべきことを考える

自分を振り返って、課題に気付く。

- 個人で考え、友だちの意見を聞いて、また個人で考える。

3 本時の授業

(1) 1年生 違法の精神4－(1)

○きまりやルールに反発したい時期 → 守ればよい、権利の主張と義務の不履行

(2) 2年生 個性の伸長1－(5)

○個性の意味をはきちがえる時期 → 他人とちがうこと、ちがうことへの怖れ

(3) 3年生 生命の尊重3－(1)

○生命に関する経験が少ない → 支え合って、生かされている、生命の有限性

(4) 先生のスナンス

- 子どもの感情や発想に付き合う
- 子どもの感情や発想に気付く
- 「先生も人間なんだな」という瞬間も大切に

4 家庭と学校ではぐくむ子どもの情操

(1) 情操＝美しいもの、すぐれたものに接して感動する情感豊かな心

- 美しいもの
- すぐれたもの

(2) 子どもたちとのかかわり

- 「はやくしなさい」
- 「ちゃんと言いなさい」

(3) 道徳的な経験の重視

- 葛藤する場面の経験
- 他の人の立場になることの経験

(4) 道徳的な環境の整備

- 自然を見て思わず出ることば
- 悩み苦しんでいる人を見て思わず出ることば
- 社会で認められている行動

平成24年9月12日
校長 加藤 敏久

道徳授業地区公開講座のまとめ

- 授業の評価は「よく考えられた」「いろいろな意見が出た」
- まず自分で考え、他人の意見や考えを聞き、もう一度自分の考えを再構築する（最後は自分に返る）
- 恥ずかしくて言えない生徒でも、紙には考えを書ける
- 今は振り返れなくても、いつか思い出す
- 少しでも自分を見つめることができたかな

1 資料の選定

- (1) 自分が読んで心に残るものを選ぶ（副読本以外でもよい）
- (2) 多様な考えが引き出せる発問が見込めるもの

2 発問（展開）の設定

- (1) 多すぎない（時間的に3、多くても4）
- (2) 明らかに正しい意見ばかり出ないもの
- (3) 行間や背景を想像させる（言語の読み取りではない）

3 ワークシート

- (1) 発問はひとつずつみんなで同じ時間で考えさせる
（先にやらせない、他の発問と合わせていっぺんにやらせない）
- (2) おとなしく、目立たない生徒のワークシートこそ、机間をまわりながら見ておく

4 生徒の発言

- (1) 「発表」が授業の目標ではない
（声が小さければ教員が復唱する、発表の技術や成果は求めない）

5 終末

- (1) まとめようとしなない
- (2) 終着点を探そうとしなくてよい、終わらなければ終わらなくてよい

6 板書

- (1) 1枚の作品のように仕上げる（できるだけ消さないで残す）
- (2) 生徒の意見は必ず板書する

7 ICT

- (1) 具体物や挿絵、写真などを大きく映すと、イメージをもって考えを深めるのに有効
- (2) 資料を補完する動画などの映像を映すと、考えを広げるのに有効
- (3) 発問や生徒の発言は、ICTを使うよりも板書した方がよい（残す）
○準備から協議会までお疲れ様でした。